

令和7年度

試験名: 推薦入学試験

【社会・国際学群 国際総合学類】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
問1(1)	問1(1) 冷戦後は、民主主義がより多くの国で広まってゆくであろうと予想された。実際多くの国が民主化を果たしたが、近年では、冷戦が終わりを迎えた時にすでに民主的であった国を含め、世界的に民主主義が後退している。このような現状を説明している英文を読ませ、受験生が内容を正確に理解しているか、そして自分の言葉で要点をまとめる能力があるかを評価する。
問1(2)	問1(2) この文章では、民主主義が後退している現状を、まずはハンガリーのケースを通して示しているが、世界全体的に見ても同様の傾向が見られる、としている。その理由として、2008年のリーマン・ショック、グローバル化による失業の増加、貧富の差のさらなる拡大などの経済的な問題に、民主主義国家がうまく対処できていない点を挙げている。他方、中国などは非民主主義的な国の方がこれらの問題に対し効率的に対応できるため、政治的行き詰まりが頻繁に起きるような民主主義国家に比べ、継続的に経済成長をもたらすことができるとしている。このような議論に対し、賛同できる、あるいはできない点を挙げつつ、自身の意見を論理的に述べることができるかどうかを評価する。
問2	本問題は、国際総合学類において必要だと考えられる、国際社会の現実的な問題に対する独自の視点と分析力、知識、加えて文章読解力、文章表現力等を問うことを意図して出題された。題材は、ナツジ等の政策手法に関する NTT 出版『ナツジで、人を動かす——行動経済学の時代に政策はどうあるべきか』からの抜粋である。選択の自由を保持するナツジに対して、強制力のある義務化や禁止といった手法の正当性について議論し、最後に自由と尊厳を重視する立場からの反論へ疑問を投げかけている。 設問(1)では文章を要約させることで、文章の読解力と要点をまとめる能力をみる問題である。その際、文章の論旨を正しく捉えているか等が評価のポイントとなる。 設問(2)は、ナツジや義務化等の政策手法に関する自らの考えを展開する能力をみるための問題である。本文の内容を踏まえて問題を捉えることができたか、またそれに噛み合った自らの意見を論理的かつ説得的に主張できているかを、文章表現力を含めて、評価する。